

国際学科で目指すものは

（１）国際学科がなぜ作られたのか

国際学科は2017年度に開設された学科です。グローバル化の進展に伴い、国際社会で活躍できる多様なスキルを持った人材の育成のために開設されました。国際学科では、「高度な専門知識を持ったグローバル・エキスパートを育成する」ことを目指しています。

・国際社会に出るために必要なこと

国際社会で活躍するためには何が必要でしょうか？もちろん多様な国籍の人々とコミュニケーションを取らなければならないわけですから、語学力は必要不可欠です。英語の能力、特に「聞く、話す」能力を身につける必要があります。また、国際社会の一員として多様な文化的背景を持った人々とともに活動するためには、自らの視点や価値観を相対化できる、幅広い教養も必要でしょう。

しかし、実際に国際的にビジネスその他の仕事を行うと、それだけでは不十分なことに気がつきます。これらのスキルは、国際社会で活躍している人は当然持っているからです。これらは国際社会に参加するための「必要条件」ではありますが、仕事をするための「十分条件」ではありません。価値観も文化的背景も異なる人々の中で自分の特徴を打ち出して活躍するためには「自分は何が出来るのか」、言い換えれば、他人にはない専門的な知識・スキルを持っているかが重要となります。「話せること」はもちろん重要ですが、それ以上に「何を話せるか」が重要なのです。

・スペシャリストであることの重要性

たとえば国際機関に就職しようとして、「英語が出来ます」とアピールしてもまず聞いてもらえません。「幅広い教養を持っています」とアピールしても同じです。国内での仕事に比べ、国際的な仕事の場では圧倒的にヒトも企業も多くなります。多くのライバルと比べて何が違うのか、自分のセールスポイントは何か、を明確に打ち出せなければ仲間に入ることすら出来ないのです。語学は前提ではありますが、何らかの専門知識が必要なのは国際機関でもビジネスの世界でも同じです。銀行業務

に関する知識・経験がある、会計の能力がある、大学で企業・産業経済を学んだ、開発問題に関する勉強をしている、国際法務に詳しい、などが求められる人材なのです。つまり、ジェネラリストよりスペシャリストが圧倒的に強い世界なのです。

・日本にいるから関係ない？

自分は日本国内で活躍するから国際社会なんて関係ない。そう思う人もいるでしょう。でも本当にそうでしょうか。大企業であれば海外に拠点を持っている企業も多いでしょう。自分の勤める会社が多国籍企業に買収されるかもしれません。中小企業でも海外と取引をしている会社も少なくありません。インバウンド市場も拡大するでしょう。上司や同僚、部下が外国人になる可能性も大いにあります。つまり、これまで述べてきた国際社会は、実は、日本のなかにもすでにあるのです。海外で活躍するだけでなく、日本国内で活躍するにもグローバル・エキスパートであることはますます重要になるでしょう。

・経済学部国際学科があることの意味

他大学の国際学部などでは、どちらかと言えば語学を重視したり、幅広い教養を身につけたりすることを重視しているものが多いように見えます。もちろんこれらのスキルも重要なのですが、それだけでは広い国際社会で活躍するには不十分だと我々は考えています。さいわい、高崎経済大学は経済・経営の専門大学として長い歴史を持っています。この分野に関する豊富な経験と資源をすでに持っていることは、他の大学に比べ極めて優位です。国際学科では、「経済・経営の専門知識」をコアとし、その分野の知識を生かして国際社会で活躍できる「グローバル・エキスパート」を育成することを目指しています。これは、他大学の国際学部・学科と大きく異なる特徴と言えるでしょう。経済学、経営学の知識をうまく活用して、国際社会で本当に活躍できる人材として羽ばたいてください。

（２）国際学科のカリキュラムと履修に関するアドバイス

経済・経営の高度な専門知識を持ったグローバル・エキスパートになるためには、経済・経営の勉強が必須ですが、もちろん「語学力」「国際感覚」「幅広い教養」などが足りないわけではありません。国際学科では、経済・経

営の専門的知識を身につけつつ語学力なども養うために、下表のように全科目を6つの群に分けてカリキュラムを編成しています。

群	名 称	概 要
第1群	経済・経営の基礎	経済・経営の基礎理論・知識を学ぶ
第2群	国際系基礎	英語科目・海外研修など国際社会に出るために必要な知識を身につける専門科目（入門）を英語で学ぶ
第3群	経済・経営系応用	経済または経営の専門知識を身につける
第4群	国際系応用（社会政治）	国際社会に関する幅広い知識を学ぶ（社会・政治関連）
第5群	国際系応用（経済経営）	国際社会に関する幅広い知識を学ぶ（経済・経営関連）
第6群	学部必修	学部共通の必修科目

6群の学科に関係なく履修する学部必修科目を除くと、大きく分けると1、3、5群の「経済・経営系」科目群と、2、4群の「国際系」科目群に分けられます。1、3、5群は、経済学科及び経営学科で開講されている科目のなかで特にコアとなるような重要な科目をピックアップして国際学科でも開講しています。そのため、多くの科目が経済学科、経営学科でも同時に開講されています。一方、2、4群は国際学科独自の科目として、国際感覚や国際社会で必要となる幅広い教養的知識、およびコミュニケーション能力を身につけるためのものになります。国際学科のカリキュラムのコンセプトをまとめると以下のようになります。

1. 語学力を身につけよう

国際学科は、他学科と比べ「言語系科目」の必要単位数が多くなっています。卒業のために必要な「言語系科目」は、他学科では6単位なのに対し、国際学科は10単位です¹。また、2群に複数の英語科目及び「英語で専門分野を学ぶ」科目を設置し、語学力を高めることが出来ます。積極的に語学系科目、特に英語関連科目を履修し、国際社会に参加する準備をしましょう。

(3) 各群で学べること

1. 第1群：経済・経営の基礎

1群には、経済学科及び経営学科のそれぞれの専門科目の中でも特に基礎となる重要なもの、経済、経営を知る上で基本的な枠組みとなる科目をそろえています。初級マクロ・ミクロ経済学は1年生の学部共通必修科目「市場と経済」の後を受ける科目で、経済学の考え方のフレームワークを学ぶことが出来ます。このフレームワークは様々な分野の出来事を考える際に利用できる汎用的なもので、非常に重要です。また、経営学総論、経営管理論、会計学入門は、同じく1年生の必修科目「企業と会計」の後を受ける科目で、経営学の各分野の最初の一步のための知識を身につけることが出来ます。統計学は、経済、経営のみならず社会科学・自然科学全般に利用できる非常に汎用性の高いスキルであり、身につけておいて損になることはありません。皆さんにはこの10科目20単位の中から5科目10単位以上を履修してもらうこととなります。組み合わせ方は自由ですが、たとえば経済系の4科目（初級マクロ経済学Ⅰ、ⅠⅠ&初級ミクロ経済学Ⅰ、ⅠⅠ）のうちから3つ、あるいは経営系の4科目（経営学総論、マーケティング入門、会計学入門、経営管理論）のうちから3つと統計学2科目（統計学Ⅰ、ⅠⅠ）で5科目10単位となります。もちろん経済、経営系の両方をバランス良く履修してもかまいません。

2. 第2群：語学力と海外経験

2群には、皆さんが国際社会に参加し、ビジネスその他で活躍するために必要なスキルを身につけるための科目がそろっています。具体的にはコミュニケーションのための英語のスキルを磨く科目と、国際感覚を身につけるための海外研修です。Introductory…と名前のついている4科目は、経済、経営、国際関係論、法律の4科目

2. 国際感覚や幅広い教養を身につける

2群に、海外語学研修やフィールドワークを配置し、積極的に海外に出て国際感覚を身につけられるようにしています。大学からの補助金もできるため、特に海外に行った経験のない学生は積極的に活用してください。また、4群・5群に国際社会に関する多様な科目を設置しており、国際社会で必要となる幅広い教養を身につけることができます。

3. 経済または経営の高度な専門的知識を身につける

1群には、経済及び経営を学ぶための基礎となる科目を配置しました。この群から一定の単位を取得することにより、経済または経営のエキスパートとして活躍するための基礎知識を身につけることができます。3群には、経済・経営各学科専門科目の中心となる科目を配置し、経済または経営に関する高度な専門知識を身につけられるようにしています。3群に関しては、皆さんは経済(3-A)か経営(3-B)のどちらかを選んで履修してください²。次節で、各群についてより詳しく説明します。

¹ その分、専門科目の必要単位数が少なくなっています。

² 他方の科目は「自由選択科目」として履修可能です。

の基礎を英語で学ぶ講義科目です。また2021年度よりInnovation and Entrepreneurship を開設して応用分野を英語で学ぶ機会を設けました。英語の能力には4技能（読む、書く、聞く、話す）があるとされていますが、これらの科目では英語で講義を聞き、その内容をきちんと理解するという能力を鍛えることが出来ます。一方、World Issues I, I I, Critical Thinking I, I Iの語学系4科目では、あるテーマを元にディスカッションやプレゼンテーションを行うなど、自分の主張を正確に話し、相手に伝えるという能力を身につけることが出来ます。相手の主張を聞いて正しく理解し、同時に自分の主張を正しく話して誤解なく相手に伝える、というのは多様な文化背景を持つ人々がコミュニケーションを取らなければならない国際社会では必須の能力なので、是非頑張って身につけてください。また、英語に関しては、TOEIC, TOEFLで大学が定める一定のスコアをクリアした学生には単位を認定しています。

海外で行う語学研修、フィールドワーク、インターンシップ、ボランティアの4科目は、単位認定科目です。大学が定める一定の基準を満たすプログラムやアクティビティを行ってきた場合に単位を認定する、というものです。国際社会で活躍するには何よりも実際に国際社会に参加してみることが有効です。特に高校まで留学やホームステイなどの経験をしていない学生は、是非大学生の内に海外経験を積んでください。国際学科では長期休暇期間（夏休み、春休み）に短期語学研修プログラムを複数用意しており、資金補助を含めこれまで海外経験のない学生や海外渡航に不安を持っている学生にも参加しやすい仕組みを作っています。また、すでに海外経験がある学生は、インターンシップやボランティアに挑戦してみてくださいはどうか？これらに参加するにはある程

度の語学力が必要にはなりますが、語学研修では味わえないような濃密な現地社会、経済とのつながりを経験できるはずで。国際学科では海外でのインターンシップ、ボランティア、フィールドワークの経験についても、様々なプログラムを準備し、単位認定していくので、是非積極的に活用してください。

さらに、海外での経験を共有することの重要性から、2021年度よりSpecial Seminar（特別講義：国際）を開設し、国際社会で活躍した官民の先達から講義していただきます。

2群からは、英語スコアの単位認定も含め計28単位の内から10単位以上を履修してもらうことになります。海外研修プログラムだけで最高8単位まで認定されますので海外経験を培いながら多数の単位を取ることができます。もちろん英語で行われる講義科目を4単位、英語を話す語学系科目を2単位、海外派遣プログラムを4単位、などバランス良く履修しても良いでしょう。

3. 第3群：経済・経営をより深く

3群では経済学分野の専門科目（3-A）か経営学分野の専門科目（3-B）どちらか一方を選び、その中から14単位以上履修します。それぞれ経済学、経営学の基礎を1群科目で学んだ後の応用的分野のうち、重要なものをそろえています。これらの講義を履修してきちんと理解することにより、経済学、または経営学の知識をきちんと身につけ、それを自身の考え方のコアとして国際社会で自身の意見を発信することが出来るようになるはずで。なお、選ばなかった方の科目群（3-Aを選んだ場合は3-Bの科目）を履修した場合は、「自由選択科目」となり、卒業要件のための総単位数には加算されますが、3群の必要単位には加算されませんので、履修の際には十分注意してください。

4. 第4群：国際文化・社会の感覚

4群では、国際社会に関する幅広い知識・教養を身につけるための科目が設置されています。国際社会に実際に身を置く際に実感するのは、多様な価値観、バックグラウンドを持った人々が活動しているということです。そういう多様な人々ときちんとコミュニケーションを取る

（4）国際学科の履修モデル

ここでは、国際学科を選択したときの履修モデル例を簡単に紹介します。皆さんの履修選択に役立ててください。

1. 1年次

皆さんが大学に入学した直後の1年次には、まだ皆さんがどの学科に行くかは決まっていません。そのため、どの学科に行っても必要になる、学部共通の科目をこの段階で出来るだけ履修しておくことをおすすめします。

まず、経済学部の1年次必修科目として、「市場と経済」「企業と会計」の2科目があります。これは経済学、経営学の基礎を学ぶ科目ですが、経済学部生全員が1年次に履修する科目です。また、語学や一般教養科目などの教養教育科目群に含まれる科目についても、どの学科に行くかに関係なく卒業要件となる単位数が決まってい

ためには、自分のコアとなる専門領域を持ち自身の意見を強く持つことと同時に、異なる価値観を理解し、認め合うことがきわめて重要です。異なる価値観を理解するためには、まずはその知識を十分持つておくことが不可欠になります。4群科目を履修することで、そのための基本的な知識を身につけることが可能になるはずで。国際社会や政治の動向や異文化間のコミュニケーション、発展途上国の開発問題や移民問題、歴史や様々な地域に関するエリア・スタディなどをこの群の科目で学ぶことが出来ます。皆さんは4群及び次の5群のすべての科目の中から合計で16単位以上履修する必要があります。内訳は問いませんので、社会や政治に関する知識をより深めたい場合は4群科目を多く、経済・経営に関する知識を深めたい場合は5群科目を多く選んで履修すると良いでしょう。

5. 第5群：国際経済・経営の知識

5群では、国際経済や経営に関する応用的な知識を身につけるための科目が配置されています。世界の様々な地域の経済・社会の現状や歴史、および国際的にビジネスを行うために必要となる人事管理や物流、マーケティングに関する知識などです。経済・経営に関する知識を身につけるための科目群である3群と比較すると、3群はとくに「国際」と関わらず、経済学または経営学をきちんと理解するために重要なコアとなる科目が設置されている一方、この5群の科目はどちらかと言えば「国際」的な経済事情やビジネス活動により深く関連した科目が設置されています。経済・社会システムは歴史的経緯などにより国・地域により大きく異なりますし、国際ビジネスで必要となる知識、手法は国内だけでビジネスを行っている場合と比べ多くの点で異なります。このような点に関しては個別的、具体的に学んでいくことが有効であり、5群科目はそのための助けになるでしょう。既述の通り、皆さんは前の4群及び5群のすべての科目の中から合計で16単位以上履修する必要があります。内訳は問いませんので、社会や政治に関する知識をより深めたい場合は4群科目を多く、経済・経営に関する知識を深めたい場合は5群科目を多く選んで履修すると良いでしょう。

ますので、可能な限り1年次に取っておくと良いでしょう。日本語リテラシーや必修英語など必修科目はもちろんのこと、言語系科目、数理系科目、一般教養科目などは1年次から履修できるものも多数ありますので、出来るだけ1年次に多く単位を集めておくと、高学年になってからかなり楽になります。

英語上級科目を多く履修して留学の準備をする、多言語を幅広く学んでみる、経済・経営で必要になる数学・統計科目を前もって履修しておく、政治・文化・法律などに関する基礎知識を一般教養科目で身につけておく、など様々なパターンが考えられるでしょう。

2. 2年次

2年次になると所属学科が決まるので、学科の専門科目をどんどん履修してください。特に、2群の科目は単位取得条件が厳しい（比較的多く履修しなければならない）ため、2年次から積極的に履修して行ってください。国際学科生向けには、2年次の夏に参加する海外派遣（語学留学）プログラムを用意しています。3年次以降に様々な海外研修プログラムに参加するためにも、まずはこれに参加してください。2群の「海外語学研修」の単位にもなります。また、引き続き英語などの語学は必要に応じて履修すると良いでしょう。3群科目については3-Aまたは3-Bのなかから1-4単位そろえなければならないことを注意してください。また、2年後期からゼミもスタートします。国際学科の学生は国際学科で開講されているゼミの中から選んで選択することになりますので、前期のうちに自分がどういう内容に興味があるか、どのゼミに入りたいかを考えてください。

3. 3、4年次

3年次以降は、ゼミも始まっていますので、ゼミの専門内容に合わせて、興味や必要にそって3群～5群科目を履修していくと思います。1年次、2年次に必修科目や2群の科目をある程度履修しておけば、3年次以降で大変になることはあまりありません。また、海外フィールドワーク、海外インターンシップなどの、海外研修プログラムにも3年次以降も積極的にチャレンジしてみてください。所属するゼミの先生などにも相談してみてください。

履修モデル1：経済学を中心に学びたい

（主に国際機関、公務員、NGOなどにすすみたい）

	1年次	2年次	3年次	4年次
専門科目以外	必修英語、言語系科目、数理系科目、共通科目など	言語系科目（英語上級）、共通科目など	言語系科目（英語上級）など	
専門科目1群	統計学Ⅰ、Ⅱ 初級マクロ経済学Ⅰ、Ⅱ 初級ミクロ経済学Ⅰ、Ⅱ			
専門科目2群		Introductory Economics、 Introductory International Relations、 海外語学研修など	Critical Thinking、 World Issues、海外フィールドワーク、海外インターンシップなど	海外インターンシップ、海外ボランティアなど
専門科目3群		3-Aを中心に（金融論、財政学、ゲーム理論など）	3-Aを中心に（国際経済学、国際金融論、計量経済学など）	3-Aを中心に（経済政策論、公共経済学、環境経済学、経済成長論、労働経済学など）
専門科目4・5群		4群の政治系科目を中心に少数の科目を（国際開発論、国際機構論、国際協力論、国際人権論、移民研究、グローバル政治論、各エリアスタディーなど）	5群の経済系科目を中心に（世界経済論、アジア経済論、開発経済論、社会保障論、貿易政策論など）	5群の経済系科目を中心に（経済史概論、西洋経済史、アジア経済史、中国経済論など）
専門科目6群	市場と経済 企業と会計	基礎演習	演習Ⅰ	演習Ⅱ

履修モデル2：経営学を中心に学びたい

(主に外資系企業、日系多国籍企業、日本企業の海外部門など)

	1年次	2年次	3年次	4年次
専門科目以外	必修英語、言語系科目、数理系科目、共通科目など	言語系科目（英語上級）、共通科目など	言語系科目（英語上級）など	
専門科目1群	統計学Ⅰ、Ⅱ	経営学総論 マーケティング入門 経営管理論 会計学入門		
専門科目2群		Introductory Management、 Introductory Legal Systems、海外語学研修など	Critical Thinking、 World Issues、 Innovation and Entrepreneurship、 海外フィールドワーク、海外インターンシップなど	海外インターンシップ、海外ボランティアなど
専門科目3群		3-Bを中心に（国際ビジネス概論、企業論、消費者行動論、民法総則、会社法など）	3-Bを中心に（国際経営論、経営組織論、生産管理、経営労務論、経営分析、財務会計、企業財務論など）	3-Bを中心に（多国籍企業論、経営戦略論、コーポレート・ガバナンスなど）
専門科目4・5群		4群の社会系科目を中心に少数の科目を（国際コミュニケーション論、国際文化論、グローバルメディア論、国際社会学、グローバルヒストリー、各エリアスタディーなど）	5群の経営系科目を中心に（国際マーケティング論、異文化経営論、国際経営戦略論、外国経営史など）	5群の経営系科目を中心に（国際物流論など）
専門科目6群	市場と経済 企業と会計	基礎演習	演習Ⅰ	演習Ⅱ